

## 伝統的建造物群保存地区選定にむけての経過報告

### 主な行事

年 月	主な行事や調査事項
H14年5月	豆田地区振興協議会への保存対策調査の説明
〃 6月～	保存対象家屋の本調査(79棟)
〃 10月	豆田地区住民及び商店主へのアンケート。回収率地区 601/670、商 96/96
〃 11月	町並み保存講演会(大河内直躬先生)
〃 12月	豆田地区住民代表による先進地視察(男性) 八女市、吉井町
H15年2月	保存対象家屋の追加調査(47棟)
〃 3月	町並み保存講演会(上野邦一先生)
〃 6月	豆田地区住民代表による先進地視察(女性) 鹿島市、有田町、塩田町
〃 7月～8月	地元への伝統的建造物保存制度の説明会 述べ出席人員222名
H16年3月～	調査家屋、豆田地区の特徴等の報告会

### 豆田地区の家屋調査報告(調査軒数 91 軒→延べ棟数169棟)

年代	町家主屋	座敷	屋敷	土蔵	その他	合計
江戸時代	21	6	6	27	0	60
明治前期	13	0	1	4	0	18
明治後期	32	3	2	12	0	49
大正期	8	5	2	6	1	22
昭和前期	16	0	0	1	3	20
計	90	14	11	50	4	169

### 家屋の修復の可能性の現状

A 判定	現状及び痕跡から現段階で復原可能	39棟
B 判定	痕跡、古図面、古写真から現段階で復原可能	51棟
C 判定	現状では困難だが、柱材が残り解体すれば復原可能	43棟
D 判定	柱材が失われているため、解体しても復原不可能	3棟

### 豆田地区の家屋の特徴

建築年代の多様性、建築類型の多様性、屋根形式の多様性

最も古い建築は、草野本家座敷、諫山和光家主屋→元禄年間

年代の確定している最も古い家屋は坂本篤家→安永2年(1772)

明和9年(1771)、明治13年(1880)、明治20年(1887)に大火を経験した事から耐火性能を意識した居蔵造が多く、後世に残すべき特徴を持った地区である。

### 文化庁への保存地区の決定および保存計画策定の報告の経緯について

平成16年9月9日地元審議会委員と文化審議会委員の河東委員長代理、石森委員との意見徴集を経て、10月15日開催された文化庁の文化審議会において、兵庫県篠山市篠山地区と合わせて豆田地区を新たに「重要伝統的建造物群保存地区」に選定する様にとの答申に基づいて12月10日には選定の官報告示がなされ、伝建地区は59市町村66地区となった。